

エペソ人への教会（エペソ教会の皆さんへ）

私たちの心には、自分と違った人々をなかなか受け入れないものがあるようです。差別（家柄、学歴、職業、社会的地位、貧富の差等による）は、古くて新しい問題です。人よりも、少しでも自分が優れていると思いたい心が、差別をつくりあげるのでしょうか。パウロは獄中から、各地の教会に手紙を送りました。その一通がこの手紙です。初めてのころの教会には、まだユダヤ人と、それ以外の外国人との間に意見の対立があり、なかなかしっくりいきませんでした。

—

1 エペソに住む、いつも主に忠実な、愛するクリスチャンの方々へ。

神様に選ばれて、キリスト・イエスの使者となったパウロが、この手紙を送ります。2 どうか、父なる神と、主イエス・キリストから与えられる恵みと平安が、あなたがたのものとなりますように。3 さて、主イエス・キリストの父なる神を、どのようにほめたたえたらよいでしょう。神様は、天上のあらゆる祝福で、私たちを祝福してくださいました。それは、私たちがキリスト様のものとなっているからです。

4 神様は、この世界をお造りになる前から、私たちを、ご自分のものとして選んでくださいました。それは、キリスト様が私たちのためにしてくださることに、基づいています。そして、神様は私たちを、ご自分の目から見て、何一つ欠点のない、きよい者にしようとお定めになりました。神様の前に立つ私たちは、その愛に包まれているのです。5 神様の不変の計画とは、イエス・キリストを遣わし、その死によって、私たちを神様の家族の一員として迎えることでした。それが、神様のお考えでした。

6 神様こそ、いっさいの賞賛を受けるべきお方です。神様は、驚くばかりの恵みと愛とを、豊かに注いでくださったのです。それは、私たちが、神様の最愛のひとり息子につながる者となったからです。7 神の子の血を流してまで、私たちの罪を帳消しにしてくださるほど、神様の愛は大きいのです。この神の子によって、私たちは救われました。

8 神様は、豊かな恵みを、あふれるほど注いでくださいました。私たちをよく理解し、何が最善であるか、常にご存じだからです。

9 神様は、キリスト様を遣わしたことの隠れた理由を、私たちに知らせてくださいました。その計画は、ずっと昔から、神様の愛のうちに決定済みでした。10 その目的はこうです。すなわち、機が熟せば、私たちを、天でも地でも、あらゆる所から集めて、いつまでも、キリスト様のものとして神様のそばで過ごせるようにすることです。11 そればかりでなく、キリスト様が成し遂げてくださったことのおかげで、私たちは、神様への喜ばしいささげ物とされています。というのは、神様の主権的な計画の一部として、私たちは、神様のものとなるように、最初から選ばれていたのであり、すべては、ずっと昔からの、神様のお考えどおりになるからです。12 なぜ神様は、このようになされたのでしょうか。それは、最初にキリスト様を信じた私たちに対する、こんなにもすばらしい恵

みを見て、私たちが神様をほめたたえるためなのです。

13 キリスト様が成し遂げてくださったことのおかげで、あなたがたも、救いを約束する良い知らせを聞き、キリスト様を信じるようになりました。そして、キリスト様に属する者であるという証印を、聖霊様に押しいただきました。この聖霊様については、ずっと以前から、クリスチャン全部に約束されていたことです。14 私たちのうちに住まれる聖霊様は、神様が約束のものを全部ほんとうに与えてくださる、という保証です。それで、私たちに押された聖霊の証印は、神様がすでに私たちを買い上げ、ご自分のもとに引き取ってくださることを、保証するのです。これが、栄光の神様をほめたたえる、もう一つの理由です。

15 こういうわけで、私は、主イエスに対するあなたがたの信仰と、ほかのクリスチャンに対する愛とを耳にして以来、16 絶えず神様に感謝してきました。いつも、あなたがたのために、こう祈り求めています。17 どうか、主イエス・キリストの神様、すなわち栄光の父が、あなたがたに知恵を与えて、キリスト様がどのようなお方か、また何をしてくださったかを、正しく、はっきりと理解させてくださいますように。18 また、心にあふれるほどの光が与えられて、神様が、あなたがたを召して与えようとされる将来を、はっきり見きわめることができますように。そして、キリスト様のものとして、私たちが神様にささげられた結果、神様の豊かさがいっそう明らかになったことも、知ってほしいのです。19 また、信じる者を助ける神様の力が、信じられないほど絶大であることを、理解してくれるようにと祈っています。20 21 この同じ絶大な力が、キリスト様を死人の中から復活させ、ほかのどんな王、支配者、権力者、指導者よりもはるかに高い、天の神様の右の座につかせたのです。実に、このキリスト様の栄誉は、この世だけでなく、次に来る世でも、他のすべてに、はるかにまさって輝かしいものです。22 そして神様は、すべてをキリスト様の足の下に従わせ、キリスト様を教会の最高の頭とされました。23 教会は、キリスト様の体であって、すべてを造り、すべてを満たすキリスト様の霊が満ちあふれる場所です。

二

1 以前、あなたがたは神様からのろわれた存在であり、罪のために永遠に滅びる運命でした。2 世間一般の人と同じ生き方をし、別にな変わったところもありませんでした。罪にまみれ、空中の權威を持つ、力ある支配者サタンの言うままになっていたのです。このサタンは、主に反抗する人の心に、今も働きかけています。3 私たちもみな、以前はほかの人たちと全く同じでした。その生活ぶりは、心にある悪を反映したものでした。欲望や悪意のおもむくままに、あらゆる悪事を重ねていたのです。私たちは、生まれつきの悪い性質で悪へと突っ走り、他のすべての人と同様、神様の怒りを受けて当然の者でした。

4 しかし神様は、なんとあわれみに満ちたお方でしょう。こんな私たちを深く愛してくださいました。5 それゆえ、罪のために霊的に死に果て、滅びる運命にあった私たち

をも、キリスト様の復活と同時に生き返らせてくださいました。〔救われる価値などない私たちに、ただ一方的な恵みが注がれたのです。〕 6そして、キリスト様と共に、墓の中から栄光へと、引き上げてくださいました。その天の領域で、私たちはキリスト様と共に、席に着いているのです。これはすべて、キリスト・イエスが成し遂げてくださったわざに基づいているのです。 7神様がキリスト・イエスを通して成してくださった、すべてのことから、神様の恵みのすばらしさがわかります。私たちは今、その恵みがどんなに豊かであるかを示す、見本となれるのです。

8あなたがたは、神様の寛容さのゆえに、キリスト様を信じることによって救われたのです。しかも、そのキリスト様を信じることすらも、あなたがたから自発的に出たことではありません。それもまた、神様からの贈り物なのです。 9救いは、私たちの良い行ないに対する報酬ではありません。ですから、だれ一人、それを手柄として誇ることはできません。 10私たちをこのように造り、キリスト・イエスによる新しい生活に入れてくださったのは、神様です。この新しい生活は、神様がずっと以前から計画してくださったものであり、私たちが互いに助け合って過ごすためのものです。

11あなたがたも、以前は異教徒として、ユダヤ人からは、神様を信じない「汚れた者」と呼ばれていた自分を、決して忘れてはなりません。〔もともと、そういうユダヤ人も、神様を敬うしるしとしての割礼（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）を受けて、信心深そうに儀式や礼拝を守っていたとはいえ、心は汚れたままだったのですが。〕 12思い出してもごらんなさい。そのころのあなたがたは、キリスト様とは全く無縁な生き方をしていました。神様の子供となった人々には敵対し、神様から、何の助けも約束されていませんでした。神様もなく、望みもない、滅びる以外にない存在でした。

13しかし今では、キリスト・イエスに属する者となっています。以前は、神様から遠く離れていたあなたがたも、キリスト・イエスがその血によって成し遂げてくださったことのゆえに、今では、神様のそば近くに引き寄せられているのです。

14キリスト様こそ、私たちの平和の道です。この方は、私たちユダヤ人とあなたがた外国人とを一つの家族とし、両者を隔てていた軽べつという壁を打ちこわして、平和をつくり出してくださいました。 15つまり、ご自分の死によって、相互の激しい敵意を、除いてくださったのです。その敵意の原因とは、ユダヤ人を特別扱いし、外国人をのけ者にする、ユダヤ教のおきてでした。そのおきて制度全体を無効にするために、キリスト様は死んでくださったのです。そして、それまで互いに対立していた二つのグループを、それぞれ自分の手とし、足とされました。こうして、私たちを融合させて、新しい一人の人間をつくられたのです。ついに平和が実現しました。 16私たちが同じ体のそれぞれの器官になったので、互いの怒りは消え去りました。両者とも、神様と和解したからです。こうして、反目は、十字架によって、ついに終わりを告げたのです。 17そして、キリスト様は、遠く離れていたあなたがた外国人にも、近くにいた私たちユダ

ヤ人にも、この平和の良い知らせを、もたらしてくださいました。 18 キリスト様が成し遂げてくださったことのゆえに、ユダヤ人も外国人もみな、聖霊様に助けられつつ、父なる神のもとに行けるのです。

19 今、あなたがたは、もはや神様にとって見知らぬ他国人でも、天国に縁のないよそ者でもありません。 神の家族の一員であり、神の国の市民なのです。 すべてのクリスチャンと共に、神の一家を構成しているのです。

20 あなたがたは今、使徒と預言者という土台の上に立っています。 しかも、この建物の最も重要な土台石は、キリスト・イエスです。 21 私たち信じる者は、常にりっぱな神殿を目指す建物の一部分として、共に、注意深くキリスト様に組み合わされているのです。

22 そして、あなたがたもまたお互いに、御霊によって、キリスト様に組み合わされ、神の家の一部となるのです。

三

1 キリスト様の奴隷である私パウロは、今、あなたがたのために投獄されています。 あなたがた外国人も、神の家族の一員だと告げたからです。 23 私は、外国人に神様の恵みを示すためのこの特別の任務を、神様から受けています。 このことについては、前の手紙でも簡単にふれましたから、もうすでにご存じと思います。 外国人もまた神様の恵みの対象とされているという、この神様の特別の計画を、神様が私に明かしてくださったのです。 4 このように申し上げるのも、これらについて私がどう理解しているかを、わかっただくためです。 5 以前には、神様はこの計画を、自分の民に隠しておられました。 しかし今では、聖霊様を通して、使徒や預言者たちに、はっきりと示しておられます。

6 その特別の計画とは、こうです。 すなわち、神様の子供とされた者たちが全財産を相続する時、外国人もユダヤ人と共に、十分にその分け前にあずかるということです。 ユダヤ人も外国人も、共に神の教会の一員として招かれています。 そして、キリスト様についての良い知らせと、この方が成し遂げてくださったこととを受け入れる時、キリスト様によって大いに祝福するという神様の約束に、両者ともあずかるのです。 7 神様は、この計画をすべての人に伝える光栄ある特権を、私に与えてくださいました。 また、その務めを果たすに十分な、神の力と特別な才能をも、与えてくださったのです。

8 考えてもごらん下さい。 私はそんな資格の全くない者です。クリスチャンの中で最も役立たずの人間です。 それにもかかわらず、キリスト様のうちにある無限の富が外国人にも分け与えられる、という喜ばしい知らせを伝える者として、特に選ばれたのです。 9 それはまた、万物を造られた神様が、世の初めからの特別な計画どおりに、ご自分が外国人の救い主でもあることを、すべての人に説き明かすためでもありました。

10 神様がそうなさる理由は何でしょうか。 それは、天上のもろもろの支配者たちに対して、神の全家族——ユダヤ人も外国人も——が神の教会の中で一丸となっている姿を見せ、神様の完全な知恵を示すためです。 11 これこそ、神様が主キリスト・イエスを通

して、かねてから計画しておられたことなのです。

12 キリスト様と共に、また、キリスト様に頼って神様に近づけば、きっと喜んで迎えていただけることを確信して、私たちは今、恐れることなく、大胆に神様の前に出ることができます。

13 ですから、どうか、私がいま体験している苦しみを知って落胆しないでください。この苦しみは、あなたがたのためであり、それは、あなたがたにとって名誉となり、励ましとなるはずです。14 15 神様のご計画の知恵深さと広大さを思う時、私はひざをかがめて、神の大家族〔その中のある者はすでに天国におり、ある者はまだ地上にいます〕の父なる方に祈ります。16 どうか、父なる神が、その栄光に満ちた無限の富の中から、聖霊様を通して人を内面から強くする力を、あなたがたに与えてくださいますように。17 また、こうも祈ります。どうか、キリスト様が、信じるあなたがたの心に住み、喜んでそこに住み続けてくださいますように。どうか、この上なくすばらしい神様の愛という土壌に、あなたがたが深く根を張れますように。18 19 そして、〔神様の子供とされた者にとっては当然のことですが〕神様の愛が実際にどれほど長く、どれほど広く、どれほど深く、どれほど高いかを知り、また理解できますように。さらに、それを身をもって経験できますように。もっとも、この愛はあまりにも大きいので、それを見極め、完全に把握することは、とても無理ですが。こうして、あなたがたはついに、神ご自身によって満たされるのです。

20 どうか、私たちのないうるかぎりの祈り、願い、考え、望みを無限に超えて、つまり、私たちが大胆に願い求め、夢見することもはるかに及ばないすばらしいことを、その偉大な力でなされる神様に、栄光がありますように。21 どうか、キリスト・イエスによって、教会に救いの計画をもたらしてくださった神様に、栄光が永遠にありますように。アーメン。

四

1 主に仕えたために、今こうして牢獄につながれている私から、お願いします。このようにすばらしい祝福を受けるべくして選ばれたあなたがたは、それにふさわしく生活し、行動してください。2 謙そんで柔和な人になってください。愛をもって互いの欠点を思いやり、互いに忍耐してください。3 聖霊様によって心を一つにされるよう常に努力し、互いに仲良く暮らさない。

4 私たちはみな、一つの体の各器官です。だれもが同じ御霊様を与えられ、同じ輝かしい未来へと招かれています。5 また、私たちの主はただ一人であり、信仰も一つであり、バプテスマ（洗礼）も一つだけです。6 そして、私たちすべての上に立ち、すべての中に宿り、各器官である私たちを貫いて生きておられる、神であり父である方を、知っているのです。7 けれども、キリスト様は私たち一人一人に、それぞれ特別の能力を与えてくださいました。自分の豊かな賜物の宝庫から、お心のままに与えてくださったのです。

8 旧約聖書の詩篇の作者は、このことについて

「キリストは、復活してサタンに打ち勝ち、
勝利を得て天に帰られた時、
人々に惜しみなく賜物をお与えになった。」

と言っています。 9 ここで、キリスト様が天に帰られたという点に注意してください。
それは、最初は天の一番高い所におられたのに、地の一番低い所に下られたことを意味します。 10 この下って来られた方が、天に帰られたのです。 それは、キリスト様が、
底辺から頂点に至るまで、あらゆる点であらゆるものを満たすためなのです。

11 さてこうして、ある者には使徒としての特別な能力が与えられ、ある者にはすぐれた
説教者としての才能が与えられました。 また、キリスト様を救い主として信じるように
と人々を指導する、特別な能力を受けた者もいれば、羊を見守る羊飼いのように、神の民
となった人たちの世話をし、神様のお考えにそって導き教える力を受けた者もいます。

12 なぜこのように、最善を尽くせる能力がそれぞれに与えられたのでしょうか。 それは
は、神の民となった人々が、神様のためにより良く働けるよう整え、キリスト様の体である
教会を、力にあふれた、完成した状態へと建て上げるためです。 13 そしてついに、
私たちはみな、救いについて、また救い主である神の子について、同じ信仰を持つに至り、
主にあって完全に成長した者となるのです。——そうです、キリスト様に完全に満たされ
た状態にまで、成長するのです。

14 そこで、もはや、だれかから間違ったことを教えられたり、うそを真実のように、た
くみに見せかけられたりしても、そのたびに、子供みたいにふらふらと、信じるものを変
えてはいけません。 15 むしろ、誠実に語り、誠実にふるまい、誠実に生きて、常に真
理に従うのを喜び、あらゆる点で、キリスト様〔教会の頭なる方〕にますます似た者とな
るのです。 16 このキリスト様の指揮下で、体全体がみごとに組み合わされ、各器官は
それぞれ特別な方法で他を助けます。 それは、体全体が健康になり、成長して、愛にあ
ふれるためです。

17 そこで私は、主のために、このことを言わせていただきます。もうこれから先、救わ
れていない人と同じ生き方をしてはなりません。 彼らは分別を失い、混乱しているの
です。 18 その閉ざされた心の中は真っ暗です。 神様に対して心を閉ざしているので、
神様のいのちから遠く離れています。 もちろん、神様のお気持ちなど理解できません。

19 彼らは、善悪の区別など、気にもとめません。 不潔な生き方にひたりきっています。
悪だくみと無分別な欲望に押し流され、それを食い止めるすべはありません。

20 しかし、キリスト様が教えてくださった生き方は、全く違います。 21 もしあなたが
たが、ほんとうにキリスト様の声を聞き、キリスト様に関する真理を学んでいるなら、
22 古い邪悪な性質をかなぐり捨てなさい。 古い性質とは、悪い生き方の道連れであつ
た、以前のあなたがた自身のことです。 それは、肉欲とごまかしにまみれ、骨の髄まで
腐りきっていました。

23 今や、あなたがたの態度や考えをみな、より良い方向へ転換しなければなりません。

24 そうです、あなたがたは、全くの別人、きよく善良な人になるべきです。 この新しい性質を身にまといなさい。

25 私たちは互いに体の一部分なのですから、ごまかし合いをやめ、真実を語りなさい。うそをつき合えば、自分自身を傷つけることになるのです。 26 腹を立てることがあっても、恨みをいだいて罪を犯してはなりません。 日暮れまで、怒ったままでいてはいけません。 すぐに冷静さを取り戻しなさい。 27 腹を立てていると、悪魔につけ込むすきを与えるからです。

28 盗みを働いていた人は、すぐにやめなさい。 まともに働きなさい。 そうすれば、困っている人に施すこともできます。 29 悪意あることばを口にしてはいけません。 ただ相手に益となり、助けとなること、また、祝福を与えることだけを話しなさい。

30 聖霊様を悲しませるような生き方をしてはいけません。 この聖霊様は、罪からの救いが完成する日のために、救いの確かな証印を押してくださる方であることを、忘れてはなりません。

31 意地悪、不きげん、怒りを捨てなさい。 けんか、とげのあることば、えこひいきが日常生活に巣くってはいけません。 32 むしろ、互いに親切にし、心のやさしい人になりなさい。 そして、あなたがたを、キリストのものとなったということで赦してくださった神様にならい、お互いに赦し合いなさい。

五

1 子供が、かわいがってくれる父親を見ならうように、何をするにも神様を模範としなさい。 2 キリスト様の模範にならって、他人への思いやりに満ちあふれていなさい。 キリスト様の愛は、あなたがたの罪を取り除くために、ご自身をいけにえとして神様にささげるほど、深かったのです。 このキリスト様の愛の香ばしいかおりを、神様はお喜びになったのです。

3 あなたがたの間に、性的な罪や、不潔な行ない、食欲があつてはなりません。 そんなことで、だれからも非難されないようにしなさい。 4 汚らしい話や、みだらな会話、下品な冗談は、あなたがたにふさわしくありません。 むしろ、互いに神様の恵みを心にとめて、感謝しなさい。

5 もうよくご存じと思いますが、キリスト様と神様との国に、汚れた人や食欲な人は入れません。 食欲な人は、実は偶像礼拝者であって、神様よりもこの世のものを愛して拝んでいるのです。 6 これらの罪の言いわけをする者たちに、だまされてはなりません。 神様の恐ろしい怒りは、こんな行ないをする者に片っぱしから下るからです。 7 彼らとのつき合いすら禁じます。 8 あなたがたの心は以前は暗やみにおおわれていましたが、今は主からの光にあふれています。 そのことを態度で示しなさい。 9 内面がこの光で輝いているのですから、良いこと、正しいこと、真実なことだけを行なうべきです。

10 日々の生活で、何が主に喜ばれることかを、わきまえなさい。 11 悪と暗やみの無意味な快樂に身を任せてはいけません。 むしろそれを非難し、明るみに出しなさい。 1

2 神様を敬わない者たちが暗やみでふけている快樂は、口にするのも恥ずかしいことです。 1 3 しかし、あなたがたがそれを明るみに出す時、光がその罪を照らし出して、正体をあばきます。 その実態の醜さに気づいて、そのうちの何人かは光の子供となるでしょう。 1 4 だからこそ、聖書にこう言われているのです。

「眠っている者よ。 目を覚ませ。

死人の中から起き上がれ。

そうすれば、キリストがあなたを照らされる。」

1 5 1 6 ですから、自分の行動によくよく注意しなさい。 今は困難な時代です。 愚か者にならないで、賢くなりなさい。 あらゆる機会を十分に生かして、正しい行ないをしなさい。 1 7 軽率に行動せず、主が望んでおられることを実行しなさい。 1 8 酒を飲みすぎてはいけません。 そこには多くの悪が潜んでいるからです。 むしろ、聖霊様に満たされ、支配していただきなさい。

1 9 詩篇と賛美歌を引用し、聖なる歌をうたい、心の中で主に向かって音楽をかなでつつ、互いに主について存分に語り合いなさい。 2 0 常に、あらゆることを、主イエス・キリストの名によって、父なる神に感謝しなさい。

2 1 互いに従順になって、キリスト様をたたえなさい。 2 2 妻は、主に従うのと同様に、夫に従いなさい。 2 3 なぜなら、キリスト様の体である教会がキリスト様にゆだねられているのと同じように、妻は夫にゆだねられているからです。 [キリスト様は教会のために心を配り、その救い主となるために、実にいのちさえも投げ出されたのです。] 2 4 そういうわけですから、妻は、教会がキリスト様に従うのと同じように、どんなことでも、喜んで夫に従わなければなりません。

2 5 また、夫は、教会のためにいのちを捨てるほどの愛を示されたキリスト様にならって、妻を愛しなさい。 2 6 キリスト様のその行為は、バプテスマ（洗礼）と神のことばで教会を洗いきよめ、きよく、汚れのないものとするためでした。 2 7 こうして、一点のしみも、しわも、何の傷もない、きよく完全な栄光の教会として、迎え入れようとされたのです。 2 8 これこそ、夫が妻に対してとるべき態度です。 つまり、夫は妻を、自分の体の一部のように愛さなければなりません。二人は一体なのですから、夫が妻を愛する時、実は自分自身を愛しているのです。 2 9 3 0 自分の体を憎む者はいません。 愛し、いたわるのが普通です。 それは、キリスト様が自分の体である教会をいたわってくださるのと同じです。 私たちは、その体の各部分なのです。

3 1 夫と妻が一体であることは、聖書もはっきり証言しています。「人は結婚する時、父母のもとを離れなければならない。 それは、完全に結びついて、二人が一心同体となるためである。」 3 2 これは、なかなか理解しにくいことですが、私たちがキリスト様の体の各部分であることを説明するには適切な例です。

3 3 そこで、もう一度言います。 夫は妻を、自分の体の一部のように愛しなさい。 そして妻は、夫を心から尊敬し、従いなさい。

六

1 子供は両親に従いなさい。神様は、親が子供を監督する権威を認めておられるのです。従うのは正しいことです。2 「あなたの父と母とを敬え。」これは、神様の「十戒」では筆頭のもので、一つの約束がついています。3 つまり、「父母を敬うなら、あなたは幸せになり、長生きする」とあるのです。

4 両親にもひとこと言っておきます。子供を、いつもがみがみしかりつけ、小言を並べ立てて、反抗心を起こさせたり、恨みをいだかせたりしてはいけません。かえって、主がお認めになる愛のこもった訓練と、助言や忠告を与えて育てなさい。

5 奴隷は主人に従い、最善を尽くしなさい。キリスト様に仕えるのと同じようにしなさい。6 7 主人の目の前でだけ一生懸命に働き、隠れて怠けるようではいけません。神様が望まれることを、心を尽くして行ない、キリスト様のために働くのと同様、いつも熱心に喜んで働きなさい。8 あなたがたが、奴隷であろうと自由人であろうと、良い行ないには、一つ一つ主が報いてくださることを忘れないように。

9 主人たる者も、いま私が奴隷たちに勧めたのと同じ態度で、奴隷を正しく扱いなさい。脅すばかりではいけません。自分もキリスト様の奴隷であることを忘れないように。あなたがたの主も、奴隷の主も同じお方なのです。主は人を差別したりはなさいません。

10 最後に、覚えておいてほしいことがあります。あなたがたは、自分のうちにある主の超自然的な力によって強められるべきだということです。11 悪魔のどんな戦略や策略にも立ち向かえるように、神様のすべての武具で身をかためなさい。12 戦う相手は、血や肉を持った人間ではなく、肉体のない者たちです。すなわち、目に見えない世界の支配者たち、強大な悪魔的存在、この世を支配する暗やみの大王たち、それに、霊界にいる無数の悪霊どもです。

13 ですから、いついかなる攻撃にも対抗できるように、神様の武具の一つ一つを役立てなさい。そうすれば、すべてが終わった時も、なおしっかり立てるでしょう。

14 しかし、そのためには、腰に真理の帯をしめ、神の承認という胸当てをつけなければなりません。15 次に、神との平和の知らせを伝えるために直ちに出発できる、丈夫なくつをはきなさい。16 どんな戦いにも、守りの盾として必要なのは信仰です。これがあれば、ねらい定めて射かけてくるサタンの火矢を、消し止めることができます。17 また、救いのかぶとをかぶり、御霊の剣〔神のことば〕を手にしなければなりません。

18 いかなる場合にも祈りなさい。どんなことでも、聖霊様の考えにそって神様に求めなさい。必要なものをひたすら願い求めなさい。各地に散らばったすべてのクリスチャンのために、熱心に祈り続けなさい。19 また、私のためにも祈ってください。主のことを大胆に告げる時に、また、主の救いは外国人にも及ぶと説明する時に、適切なことばが与えられるよう祈ってください。20 私は今、神様からのこの知らせを伝えたために、鎖につながれています。しかし、この牢獄の中でも、語るべきことを、主のために大胆に絶えず語れるよう祈ってください。

21 心から愛する信仰の友、主の仕事のための忠実な協力者テキコが、あなたがたに私の近況を残らず知らせてくれるでしょう。 22 テキコをそちらへ送るのは、私たちの様子を知ってもらい、それを励みにしてほしいからです。

23 どうか、クリスチャンの皆さんに、父なる神と主イエス・キリストからくる、信仰に伴う平安と愛とが注がれますように。 24 どうか、神様の恵みと祝福が、主イエス・キリストを心から愛する、すべての人にありますように。

パウロ

■